



秋田県立大学 ▶ 1999年に秋田県により設置 ▶ 2学部8学科、学生数約1600人
▶ 3キャンパス1研究施設を持つ ▶ THE世界大学ランキング日本版2017総合順位58位、
同教育リソース61位、教育満足度85位、教育成果101-110位、国際性141-150位

秋田県立大学の取り組み

課題

- ▶ 大幅な18歳人口減少が見込まれる地元エリアからの優秀な学生の確保
- ▶ これまで以上に広いエリアから、自学をめざす学生を集める

	見直し前	見直し後
方針と重点施策	▶ 進学推進委員(元高校校長)による高校訪問	▶ 県内外を問わず高校教員、保護者への情報発信を強化し、自学の人材育成面の強みを伝える ▶ 従来の高校訪問に加え、高校教員向けのメディアを利用した広報情報発信と同時に自学の評判調査・分析を実施
組織体制	アドミッションチームが担当	変更なし
成果指標	志願倍率5倍以上	現状の志願倍率(7倍強)の維持
高大接続改革への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 秋田県内のSSH、SGH指定校と積極的に連携し接続教育プログラムを実施 ▶ 県内の高校2年生向けに高大接続塾「ハイレベル数学講座」「ハイレベル生物講座」を開講し、大学での学びに対する興味、関心を醸成 ▶ 高校単位での保護者対象キャンパス見学ツアー開催 <p>▶ 「ハイレベル数学講座」で、英語で授業を受けている様子。参加した高校生からは「簡単な計算も英語になるだけで解くのが楽しい」という感想が</p>	



高校の視点

理数系教育充実と学びの継続につながる連携事業

秋田県立秋田中央高校
SSH主担当・教諭(化学)
奥山重美先生

秋田県秋田市 ▶ 1920年に開校 ▶ 全日制・男女共学・普通科 生徒数689名
▶ 2013年からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受ける ▶ 進学実績(2016年度)国公立大/84名 私立大/東北福祉大、東海大、日赤秋田看護大、東北文化学園大、ノースアジア大、埼玉工業大、専修大 他



本校はSSH指定を受けた2013年度から秋田県立大学と連携協定を結び、主に1、2年生を対象とした協働活動を行っています。

現在実施している主な取り組みは、1年生向けには大学教員による授業や秋田県立大学での実験実習等、2年生向けには課題研究の分析手法などを学ぶ「研究室インターンシップ」や高大の教員が協働して実施する授業(物理、化学、生物)、大学院生が生徒に向けて研究内容を発表するポスターセッションなどです。これらを通して生徒は1年次から「大学で学ぶ目的」や「学びのプロセス」を感じ取り、進路選択において重要な役割を果たします。

大学との交流の機会を増やすことで、普段、なかなか知り得ない最新の研究について理解が深められることも大きな利点です。研究内容を知ることは、教員が進路指導を行う際の参考にもなりますし、生徒自身の興味・関心を伸ばすことにもつながります。実際に、高校時代に取り組んだ課題研究を大学でも継続したいと、秋田県立大を志望するケースも見られました。

地元の大学なので以前から当然知ってはいましたが、この連携事業により身近な存在になっていることは間違いありません。人口減少が著しい秋田県にあって、地元のことを考え、地域のために研究したいと考える生徒に進学を勧めたいですね。

高校教員への広報強化 募集エリアの拡大に向けて認知拡大へ

大幅な18歳人口減少が予想される東北の公立大学として抱える課題、今後の重点施策を学長に聞いた。



学長 小林淳一

こばやしじゅんいち ● 1948年長野県生まれ。1976年東北大学大学院工学研究科博士課程修了。株式会社日立製作所所長、システム工学研究センター長等を歴任し、2007年システム工学研究科教授に就任。機械知能システム学部長、理事兼副学長を経て、2017年4月より現職。博士(工学)。

県内の人口減少を見越し募集エリアを広域化

本学は県との協定で出願倍率5倍以上を目標にしており、これが学生募集の指標となります。今のところこの数値は達成していませんが、秋田県の18歳人口は全国平均と比べて、今後、大幅に減少することが見込まれています。

ここ数年の一般入試の結果を分析してみると、県外出身者と比較して県内出身者の成績は芳しくなく、合格率が低い傾向にあります。県立大学のため入学者の3割以上は県内出身者でなければいけません。これは推薦枠で満たすことができていないものの、残念ながら授業についていけない者も散見されます。

また、県外からの入学者に関しては、北関東や東海などの特定の

エリアに集中しています。こうした現状を考えると、県内はもとより県外にも本学の教育の特徴、強みを積極的に発信し、広域から高校生に本学を志望してもらうことが必要だと考えました。

教員向け情報誌で自学の強みを発信

新入生アンケートによると、多くの学生が「高校の先生からの勧めが出願大の最終的な決め手になった」と回答していました。そのため、まず着手したのが高校教員への情報発信です。

本学では地元の高校校長経験者による、4人の進学推進員が高校訪問を行ってきました。しかし、1人が訪問できる高校数やエリアには限界があります。そこで一昨年、全国の高校に送られている教員向け情報誌に、記事広告を6回

にわたり、連載で掲載しました。この記事では、初年次教育から研究内容、就職支援などについて順を追って紹介し、本学が学生を育てるしくみを発信しています。加えて、記事に対する高校教員の評価や本学の認知状況を、ウェブアンケートやヒアリングで調査しました。その結果は分析し、次年度以降の募集活動に活用します。

保護者への情報発信も重要という認識から、地元の高校に協力を仰ぎ、高校単位での保護者向けキャンパス見学会も行っています。

高大接続塾により地元高校との関係強化

県立大として、地元の高校との学びの接続も大切です。県内のSSH、SGH指定校との接続教育プログラムの実施だけではなく、2015年度から地元の高校

生を対象に高大接続塾「ハイレベル数学講座」を開講しています。これは、高校で学ぶ数学が、物理学や経営の分野でどのように応用されるのかを大学教員が講義するものです。昨年は43名が参加し、「数学を楽しく感じる」ことができた」など、好評でした。学生募集を目的としたものではありませんが、この講座を通して本学に興味を持ち、結果的に進学をめざす高校生が出てきてくれればよいと考えています。

近年、進路選択における基準が、偏差値重視から変化してきていると感じます。本学は少人数教育による手厚い指導に定評があり、THE世界大学ランキング日本版でも、教育リソース、教育満足度が高く評価されています。このような強みを、従来の方法にとらわれず、広く発信していきます。